

パウハウスのあった Dessau では1931年、市議会・州議会の選挙でナチスが議席を増やし絶対多数を占めるようになった。ナチス政権が確立した32年に、州政府はナチスの動議を採択してパウハウスの閉鎖を決定した。ナチスは、パウハウスが育んだインターナショナリズム・モダンを「非ドイツ的」「ボルシェビキ的」として憎悪・排除した。1934年のナチ・ニュルンベルク党大会の《光のカテドラル》は、そのプランナー建築家であったA・シュペーアの新古典主義の法則に則って、サーチライトを等間隔に並べ、空に向かって垂直に光のビームを放射するスペクタクルであった。これは立体主義からパウハウスにいたる斜線が輻輳化し分節する、光の多様な運動性とは対極にある。この光の垂直上昇性と、33年に建設が開始された「アウトバーン」の水平的広がりとを重ねてみるとナチスの空間がシンボライズできる。

サーチライトによる都市スペクタクルと言えば、ニューヨーク・マンハッタンのスカイスクレーパーである。1930年にアール・デコの頂点と言われる《クライスラー・ビル》、31年には《エンパイア・ステート・ビル》が完成し、33年に公開された映画《キングコング》の、キングコングがエンパイア・ステート・ビルに登るシーンは、大恐慌下であったにもかかわらず、アメリカの大量生産・大量消費の社会イメージを印象づけた。アメリカは、今世紀初頭に世界第一の工業国となり帝国主義段階に入りかけたが、まだ地域的な覇権しか行使していなかった。世界化の起点は第一次大戦への参戦であり、そこでヨーロッパの普遍主義を内面化し、世界覇権のイデオロギーを身につけていった。

マサチューセッツ州に生まれたB・フラーは空輸可能な《ダイマキシオン・ハウス》を考案し、1933 - 35

1931

年には「翼のない飛行機」と呼ばれた《ダイマキシオン・カー》を試作。当時流行ったりシエブの流線型パッケージ・デザインではなく、流体力学の構造研究の成果として、また熱処理されたアルミ合金の利用によって、フラーの計画は具体化された。このことはアメリカ輸送機関史上に一つのエポックを形成し、アルミ合金の使用は、大規模な航空機産業の幕開けを促した。アメリカは、T型フォードから映画・ラジオ・電化製品・広告の伸長によって「貧困に対する最終勝利」を信じたが、大恐慌によって35年には1500万人の失業者を生み出した。

1920年代から量産大衆車の製作を「夢」としていたF・ボルシエは、33年ヒトラーの依頼を受けて、国民のための車《フォルクスワーゲン・ビートル》の設計を始めた。年来のコンセプトによる試作を重ね、38年に《VW38》というプロトタイプが製作されたが、39年のポーランド侵攻によって第二次大戦が始まり、ドイツ国民には一台も手に入らなかった。ヒトラーは、遡ること33年のベルリン・モーター・ショーの演説で、国民の貧富の差をなくす文明の利器として「国民大衆車」の生産を呼びかけていた。

1936年のスペイン内戦は、第二次世界大戦の序曲と言われ、また「戦争と革命の時代」と呼ばれるこの30年代は、A・ブルトンが24年に「シュルレアリスム第1宣言」、30年に「第2宣言」を発表して、いわばその星雲状のエネルギーを発散していた。この「宣言」をめぐる時代は、これまで記してきたように、ヴェルサイユ体制への不満、ロシア革命とスターリニズム、ファシズムの台頭、スペイン内戦、第三世界の胎動、というように、現代を画する時期である。

シュルレアリストはその現実総体への「拒絶」と「批判」をほとんど身体的痙攣として表明してきた。その現実に

対する激しい拒絶は、意識には無意識を、正気には狂気を、労働には遊戯を、また服従には暴力を、といった提起に代表されるが、性急ゆえに現実から遊離していかざるをえず、少数の知識人の運動として困り込まれていった。35年後半から36年にかけての短期間にG・バタイユ、A・ブルトンを中心に「コントル・アタック」が結成され、その政治的アピールには「たとえどんな形にせよ、国家ないし祖国の観念のために革命をまるめこもう」というような一切の傾向に敵対し、ようとする意志が明らかになっている。この根源的な変革への意志は、「世界の変革」と「人生を変えること」をつなぐ実践だけが保証していくものだった。

美術におけるシュルレアリスムとは何か、ということについてはブルトン自身明快にはしなかったが、まず無意識を表象する「自動記述」があり、それに即した「自動デッサン」が絵画レヴェルで実践された。A・マッソン、J・ミロ、マッタといった画家がそうである。また「デベイズマン(意味の転位)」という、M・デュシャンやマン・レイらダダイストを発祥の元とする考えは、M・エルンストラのコラージュ技法につながり、美術におけるシュルレアリスムは二つに分かれていった。「自動デッサン」は、後にJ・ボロックらアメリカ抽象表現主義絵画に強い影響を与え、「デベイズマン」は、エルンストを別格としてS・ダリ、R・マグリット、P・デルヴォーの図像はその具体性において、第二次大戦後のグラフィック広告の文法に吸収されていった。

[Photo Credit]

54 ©BILD-KUNST, Bonn & SPDA, Tokyo, 2000

56, 57 ©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2000